

平成27年度施策評価シート

基本施策	誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境をつくる		
総合計画での位置付け	政策	5	「ゆたかさ」のあるまちをめざして
	分野	3	スポーツ
主要な計画	・スポーツ振興基本計画		
基本施策を実施する背景や課題・目的	<p>・生活様式の多様化や健康志向の高まりなどにより、レクリエーションや健康づくり、本格的な競技などスポーツに対するニーズは年々高まっている。</p> <p>・本施策は市民一人ひとりが世代に応じたスポーツ活動のなかで「ひと」として成長することのできるこころの「ゆたかさ」のあるまちづくりをすすめるため、誰もが生涯を通じてスポーツに親しむことのできる環境づくりを目的としている。</p>		

1 概要

施策	施策の内容	これまでの取り組み	担当局
1 スポーツ活動の充実	スポーツ活動に係る指導者などの育成・強化	・市体育協会やスポーツ少年団、スポーツ推進委員会などと連携し、指導者研修会の開催、軽スポーツ及びラジオ体操の実技講習などを実施した。	市民活動部
	スポーツ推進委員や関連団体などと連携した気軽に参加できるスポーツ教室やスポーツイベントの実施	・スポーツフェスティバルや、ふるさと発見てくてくウォーキング、そりすべり大会など全市民を対象にしたスポーツイベントを実施した。 ・サッカーや水泳、スキーなど様々な競技種目でスポーツ教室を実施した。	市民活動部
	健康づくりにつながるスポーツプログラムの開発と普及	・市体育協会や競技団体等と連携し、個々の年齢や技術、体力レベルに合った運動指導やスポーツ体験を行った。(トレーニング教室やビッグアリーナ無料開放デーにおいて行うスポーツ教室など)	市民活動部
	地域におけるスポーツ活動の充実	・グラウンドゴルフやウォークラリーなど、年齢を問わず参加できる軽スポーツやレクリエーション活動への取り組みをスポーツ推進委員が中心となって地域ごとに実施した。 ・7月開催の全市一斉ラジオ体操では、小中学生のほか地域住民の参加を促した。	市民活動部
	競技スポーツの普及と競技力の向上	・飛騨高山ブルックブルズ岐阜やFC岐阜、名古屋オーシャンズなど地元にかかわりのあるチームとの交流や教室を通じて競技人口の拡大を図った。 ・世界大会、全国大会への出場者に対し、激励会を開催し、激励金を交付した。	市民活動部
	スポーツに対する意識の高揚	・トップアスリートを招聘し、子どもから大人までがスポーツに関心を持ってもらうため、スポーツ講演会や実技指導を実施した。 ・「ぎふ清流国体」1周年を記念したスポーツイベントを9月後半から約2週間集中的に開催し、市民への参加を広く呼びかけるなど意識の高揚を図った。	市民活動部
	ぎふ清流国体の成功に向けた関係団体との連携強化、市民の総力を結集した取り組みの推進	・市民によるミナモの雪像や応援のぼり旗の制作、プランター花の育成など、全市民的に歓迎装飾を行った。 ・競技団体や学校関係者、市民ボランティアなど大勢の協力を得て、各会場ごとの競技運営やおもてなしを行った。	市民活動部
2 スポーツ施設の整備	誰もが健康づくりを行える健康増進施設などの整備	・市総合交流センター建設計画は、平成22年9月に一時休止となった。 ・健康増進施設の整備については、「高山市総合交流センター検討委員会」の結果報告書や、民間事業者の市内進出・断念等の状況をふまえ、改めて施設のあり方について検討を行った。	市民保健部
	施設の利便性の向上と利用の促進	・安全で安心して利用していただけるよう老朽化している施設の修繕や改修をすすめた。 ・従前から地域で行っているスポーツ教室の開催やビッグアリーナの無料開放デーの創設など市民への施設利用に向けた機会を提供した。	市民活動部
	飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアの整備や有効活用とナショナルトレーニングセンターとしての機能強化の促進	・飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアが文部科学省によってナショナルトレーニングセンター高地トレーニング強化拠点に指定された。 ・国からの委託事業を積極的に活用するなど、医科学的サポート機能をはじめとするトレーニング環境の整備をすすめた。 ・利用者の利便向上のため、クロスカントリーコースの新設や陸上トラック改修などの施設整備を実施した。	市民活動部

2 指標の推移

指標名	単位	関連 施策	好まし い 方向	H21	H22	H23	H24	H25	H26	目標
スポーツ推進委員活動数	回	1-ア	↑	61	52	57	69	68	68	60
スポーツ教室参加者数	人	1-イ、ウ、エ	↑	10,578	12,563	13,384	11,227	13,482	12,747	13,000
スポーツ少年団員数	人	1-オ	↑	1,708	1,660	1,626	1,571	1,485	1,389	1,560
社会体育施設利用者数	人	1-カ 2-イ	↑	576,322	588,673	549,443	588,775	509,806	518,000	590,000
夜間照明施設利用者数 (学校グラウンド)	人	2-イ	↑	31,908	34,478	23,951	32,291	31,477	22,186	40,000
高地トレーニング施設利用者数	人	2-ウ	↑	13,903	16,679	17,584	16,149	14,819	16,576	21,000

3 市民アンケートの結果

		現在の「満足度」		今後の「重要度」		市民満足度を高めるために 改善等を行う優先度	
H21	点数	55.4	(平均) (54.6)	67.0	(平均) (79.7)	Ⅳ	低い
	順位	42施策中 20 番目			42施策中 40 番目		
H25	点数	58.9	(平均) (56.9)	70.8	(平均) (81.8)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 16 番目			43施策中 42 番目		
H27 (今回)	点数	57.4	(平均) (56.0)	69.5	(平均) (81.2)	Ⅳ	低い
	順位	43施策中 23 番目			43施策中 42 番目		

4 一次評価(担当部局による評価)

担当部局		市民活動部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
1	スポーツ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・国体開催を契機にした様々なスポーツイベントを開催したり、地元チームを発足させるなど、市民にスポーツをより身近なものとして感じてもらえるようなきっかけづくりができた。 ・指導者育成やスポーツに取り組む子どもたちの育成など、あらゆる年代や環境に対応できる組織的なスポーツ体制の構築が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の誰もがスポーツを生活に取り入れて、生き生きとした生活を送れるような環境づくりを進めるための機会を提供する。 ・競技スポーツにおいては、より高度で効率的なスポーツの強化促進につながるような施策を進める。
2	スポーツ施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の多くの施設を指定管理制度によって効率的な管理を進め、利用者サービスの向上や経費削減などの効果を上げた。 ・利用者が少ない施設や老朽化の激しい施設など、施設の統合や廃止などを進めて、効率の良い施設運営体制とすることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設カルテなどを通じて施設の必要性について分析・検討し、不要な施設の廃止や統合、譲渡などを積極的に進める。 ・施設の老朽化に対して、安全性や利用者の利便などを考えた効率的な改修・整備を進める。

担当部局		市民保健部	
施策	七次総合計画における検証(成果や課題)		今後の方向性
2	スポーツ施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市総合交流センター建設計画は、平成22年9月に一時休止となった。 ・健康増進施設の整備については、「高山市総合交流センター検討委員会」の結果報告書や、民間事業者の市内進出・断念等の状況をふまえ、改めて施設のあり方について検討を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設を最大限に活用しながら、健康増進施設のあり方や事業について検討を進める。

5 二次評価(企画課、総務課、財政課評価)

課題	今後の方向性
<p>主な課題としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者が少ない施設がある。 ・老朽化が進行している施設がある。 ・2020年東京オリンピック開催に向けた対応が求められている。 <p>ということが挙げられる。</p>	<p>市民アンケートの結果、施策に対する現在の満足度がやや高く、今後の重要度が低くなっているが、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりは大切であるため、教育振興基本計画に基づき、スポーツ活動の充実、スポーツ施設の整備、高地トレーニングエリアの整備に取り組んでいく必要がある。</p> <p>特に、利用者ニーズを的確に把握した効果的な事業展開が必要である。</p> <p>また、各施設の老朽化の度合いや利用頻度を踏まえ、統廃合も含めた改修計画を策定し、効率的に整備を進めていくとともに、高地トレーニングエリアについては、国、県、他の自治体や関係機関と連携してソフトおよびハード両面での環境整備に取り組んでいく必要がある。</p>

6 外部有識者の評価・意見

七次総合計画における検証に対する評価・意見
<p>・スポーツイベント、地元チームの育成、体育施設の整備等に予算措置を講じていくという側面に力を入れていく姿勢は大切なことであり、今後も継続しつつ、予算措置を講じなくても可能な内容は市民の手にゆだねていくべきである。</p> <p>一方で、高齢化の進む中、スポーツ経験のない市民が、その年齢に関わらず新たにスポーツを始める機会を多く設けることが今後の重要な課題になってくる。</p> <p>また、実現は非常に難しいが、子どものころから一種目だけのスポーツに打ち込みすぎる傾向を軽減し、自分に適した種目を探していく期間を子ども達に与えてやることも重要な課題である。</p> <p>いずれにしても、一つの担当課ではなく各課・各部の横断的なプロジェクトを組んでいかなければ実現が難しい課題である。</p> <p>・一芸に秀でることも大切だが、「あれもこれもできる」人・スポーツもできるし文化活動もできる人が多く生活する飛騨高山であってほしい。他の都市とは少し色の違う町づくりを目指しても良いと考える。</p>

【参考】基本施策に関連する予算事業の分析・評価(平成27年度事業評価における担当課評価)

関連施策	事業コード	事業名	評価	事業費決算額(千円)	
			点数	H25年度	H26年度
1-ア、エ	95110	スポーツ推進委員会事業費	80	7,566	7,904
1-ア、オ	95125	スポーツ少年団育成補助金	80	750	750
1-イ、エ、カ	95100	スポーツライフ推進事業費	80	3,909	4,033
1-オ	95130	各種体育大会開催補助金	80	850	450
1-オ、カ	95135	体育総務事務費	80	1,765	2,317
1-ア、ウ	95230	体育施設維持管理費	90	171,214	177,211
2-イ	95235	夜間照明体育施設維持管理費	80	2,493	2,577
2-イ	95240	体育施設改修整備事業費	88	39,351	26,110
2-イ	95245	体育施設管理事務費	88	3,838	223
2-ウ	95238	高地トレーニング強化拠点施設高機能化事業	70	19,382	35,639

平均点	H25年度	H26年度
81.6	251,118	257,214